

「日本に出会う～ベトナム・メコンデルタ」挨拶 (平成30年4月18日(水) 於：カントー市)

- ・ チュオン・タン・サン前国家主席
- ・ ブイ・タイン・ソン筆頭外務次官
- ・ ヴォー・タン・トン・カントー市人民委員長を始めとするメコンデルタ13市・省の指導者の皆様
- ・ ご列席の皆様

●日本政府を代表し、「日本に出会う～ベトナム・メコンデルタ」セミナー開催に御尽力いただいた全ての関係者にお礼を申し上げますとともに、一言ご挨拶を申し上げます。

●本セミナーは、ベトナムの地方経済発展を目指すフック首相の意向にそって、越外務省とメコンデルタ地域13市・省の合同で開催されることになったと伺っています。外交関係樹立45周年を迎える今年、このような重要なセミナーのパートナーとして日本を選んで頂いたことに、感謝申し上げます。

●本日、日本側からは大使館、総領事館、JICA、JETRO、国際交流基金、JNTO（日本政府観光局）が参加しており、日本企業と地方自治体の代表者、スタッフの皆様合わせ、総勢160名以上が参加していると伺っています。

●現在の日越関係は、史上最良ともいえる状況にあります。この背景には、日越両国民が有する「親近感」、両国が多くの「戦略的利益」を共有していることがありますが、両国の政治指導者が長年にわたり培ってき

た「信頼感」もとても重要な点です。

●その観点から、本日、同席いただいているチュオン・タン・サン前国家主席の功績は、非常に大きなものがあります。一例をあげると、2014年、国賓として訪日された機会に、日越両国関係を「戦略的パートナーシップ」から「広範な戦略的パートナーシップ」という新たな次元に格上げいただきました。また、国家主席就任前には、東日本大震災の被災地を御訪問頂き、多くのお見舞い品を届けて頂くとともに、被災者を励ましていただきました。また、退任後は、日越の地方自治体間交流強化を支援いただいています（皆様、サン前国家主席のご貢献に拍手をお願い致します）。

●日越間では地方自治体間の覚書・協定等は、現在計53件存在しています。その内、この一年間に新たに締結されたものが14件もあります。その中にメコンデルタ関係が6件含まれており、日本の地方自治体の関心がメコンデルタに向かいつつあることが伺えます。

●日越間の民間交流も着実に拡大、深化しています。今年2月、ベトナム日本商工会議所の会員企業数は、タイの日本商工会議所の会員数を抜いて東南アジア1位となりました。昨年、日本企業は、91億ドル（史上最高額）の対ベトナム投資許可を得ました。最新のジェトロ調査によると、日本企業のベトナムへの投資意欲は、引き続き非常に高いものがあります。日本人観光客のベトナムへの関心も高まっています。

●他方、日本企業の進出先、日本人観光客の行き先は、ハノイを中心とした北部、ダナンを中心とした中部、ホーチミンを中心とした南部に集中し、メコンデルタ地域への進出や来訪は、まだまだ少ないのが実情で

す。

●但し、先ほど地方自治体間交流で述べた通り、日本の関心はメコン地域にも向かいつつあり、今回のセミナー開催は、日本企業や日本人観光客の誘致という観点から、正に、時宜を得たものと考えられます。

●最後に、本セミナーの成功、日本とメコンデルタ地域の関係発展、日越関係の強化の3点を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

(了)